



- RINYA -



特集

令和3年度
森林・林業
白書の公表





令和4年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰

受賞者紹介

緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰とは、緑化推進運動の実施について、顕著な功績のあった個人又は団体に対し、内閣総理大臣が決定し、表彰を行うものです。

令和4年は13の個人・団体が受賞されました。受賞者の方々をご紹介します。

過去の受賞者については林野庁ウェブサイトをご覧ください。

https://www.rinya.maff.go.jp/j/sanson_ryokka/hyosyo/index.html



陽野ふるさと電力株式会社 (埼玉県)

同社は、前身のボランティア団体「陽野ふるさと会」の頃から、20年以上にわたり緑化活動に努めており、

- ① 長年にわたり地域住民が主体となり、草刈り、植栽、遊歩道の修繕等の里山整備活動を毎年行ってきたこと
- ② ボランティア活動を継続するため、住民などから出資を募り、地域にある溪流を活かしたマイクロ水力発電を行う「陽野ふるさと電力株式会社」を設立し、売電収入をボランティア活動に必要な資金として活用していることなどが評価され、受賞されました。



▲ 里山への植樹



▲ マイクロ水力発電所



2022
No.183



webアンケートにご協力をお願いします!

<https://www.contactus.maff.go.jp/rinya/form/kouhou/202206.html>



CONTENTS

- 03 特集 令和3年度 森林・林業白書の公表 ～「グリーン成長のカギを握る木材需要拡大と木材産業の競争力強化」を特集～
- 08 TOPICS 01 山地災害防止キャンペーン! ～情熱と 知恵と科学で 守る山～
- 10 TOPICS 02 第31回森と花の祭典-「みどりの感謝祭」を開催 感じよう みどりの恵みと 木のぬくもり
- 12 森林環境譲与税を活用した取組 ～地球を潤す森林環境保全へのプロセス～Vol.3 都市の暮らしと結びついた森林の設備と資源の有効活用
- 14 日本の林業遺産を知ろう! 甲賀の前挽鋸製造および流通に関する資料群
- 16 国有林野事業の取組 民国連携によるナラ枯れ被害対策の取組
- 18 TOPICS 03 ウッドデザイン賞の募集始まる
- 19 みどりの女神が行く!

表紙の写真:

木造11階建て研修施設 (神奈川県横浜市 大林組)



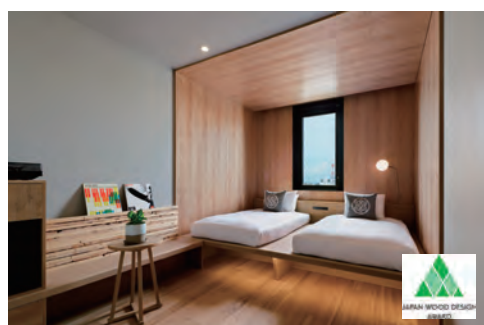


令和3年度 森林・林業白書の公表

～「グリーン成長のカギを握る木材需要拡大と木材産業の競争力強化」を特集～



薪割り体験



地上11階の高層ハイブリッド木造ホテル
(写真提供:三菱地所㈱)



大規模製材工場(宮崎県日向市)



小型遠隔操作式下刈り機



うるし掻き



ヒノキを用いた家具(写真提供:コイヤ協議会)

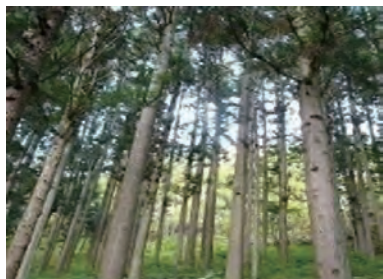
5月31日、「令和3年度森林・林業白書」(令和3年度森林及び林業の動向・令和4年度森林及び林業施策)を公表しました。

森林・林業白書では、国民の皆さんに理解を深めていただけるよう、図表、写真等をふんだんに盛り込み、森林・林業・木材産業の動向を体系的に分析することを心掛けています。実際の白書の構成に沿って、その内容を紹介します。

トピックス

1 2050年カーボンニュートラルを視野に「グリーン成長」の実現を目指す 森林・林業基本計画

2021年6月に閣議決定された森林・林業基本計画では、再造林等により森林の適正な管理を図りながら、引き続き林業・木材産業の成長産業化に取り組むことにより、2050年カーボンニュートラルに寄与する「グリーン成長」の実現を志向しています。



2 「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律」の施行 ～「ウッド・チェンジ」に向けて～

建築物における木材利用を更に促進するため、対象を公共建築物から建築物一般に拡大すべく、公共建築物等木材利用促進法が改正され、2021年10月に施行されました。



ドコモショップ丹波篠山店
(写真提供:株式会社スウィング)

3 「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」が世界自然遺産に登録

2021年7月、我が国の5件目のユネスコの世界自然遺産に登録されました。林野庁では、遺産地域の約7割を占める国有林野のほぼ全域を「森林生態系保護地域」に設定し、厳格に保護・管理しています。



マングローブ林(西表島)

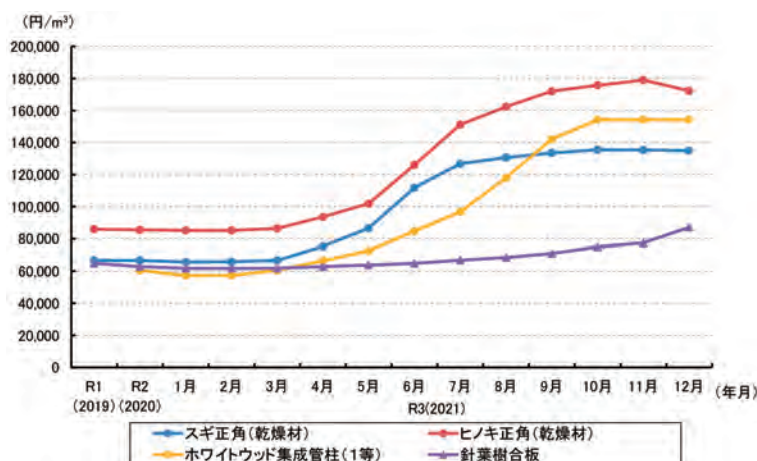
4 2021年7月、8月に発生した大雨による山地災害等への対応

2021年の7月、8月に発生した大雨による山地災害等に対し、林野庁では、JAXAとの協定に基づき人工衛星による緊急観測や、各地の被災県等と協力したヘリコプターによる被害調査、災害復旧に向けた技術的支援等を実施しました。



被災県と合同のヘリコプター調査

製材品・集成材・合板価格の推移



資料：農林水産省「木材需給報告書」

特集1
2021年の木材不足・価格高騰（いわゆるウッドショック）への対応

米国や欧州における需要の高まりや海上輸送の混乱等により、我が国の製材品輸入量は、2021年前半まで前年を下回り、その後、徐々に回復しました。また、製材品の輸入平均単価は大幅に上昇し、輸入木材の代替としての国産材の需要が高まり、製材品・合板・原木価格も上昇しました。林野庁は、同年4月以降、需給情報連絡協議会を開催し、需給情報の共有を行うとともに国産材製品への転換事例を周知しました。また、2021年度の補正予算により、木材製品の供給力強化に向けた乾燥施設の整備や、原木の安定供給に向けた間伐・路網整備等を支援しました。

特集2

グリーン成長のカギを握る木材需要拡大と木材産業の競争力強化

第1節では、木材利用の意義や木材需要の拡大、木材産業の競争力強化の重要性を記述しました。「グリーン成長」の実現に向けては、「新しい林業」等の取組により造林・素材生産コストを下げる取組に加え、木材、特に製材用材の安定的な需要を確保・拡大していくことが重要です。木材産業は、森林・林業の持続性の確保と木材の適切な利用の推進の両面から重要な存在であり、その競争力強化は、「グリーン成長」実現のカギとなります。

第2節「建築分野における木材利用の動向」では、

住宅と非住宅・中高層建築物に分け、木材利用の状況、ニーズを整理しました。

第3節「木材産業の競争力強化」では、まず、規模拡大により大ロットで安定的に木材製品を供給していく「国際競争力の強化」を記述しました。次に、「顔の見える木材での家づくり」など、地域の製材工場等が地域の様々なニーズに対応して優良材を提供する「地場競争力の強化」を記述しました。そのほか、木材輸出の取組、原木の安定供給体制の構築等について記述しました。

第4節では、課題と対応を整理しました。2021年は、住宅に使われる部材のうち特に輸入材比率の高い横架材等の需給が逼迫し、国産材で代替

した例も見られました。住宅分野における需要拡大に向けて、このような事例の横展開が必要です。非住宅分野・中高層分野での木材の需要拡大に向けては、木造化・木質化に必要な知見を有する設計者の育成や、設計・施工コスト低減に向けた標準的な設計・工法等の普及、JAS製品の供給体制の構築の取組を進めています。

また、更なる国産材活用に向けて、CLTや耐火部材等の技術開発・普及も重要です。CLTは、2021年4月現在、計9工場で年間8万㎡の生産体制となっています。

中高層建築物の木造化の例



中高層建築物においても、技術開発の進展や建築基準の合理化等、木材の利用環境の整備が一定程度進んでおり、木材を使用した12階建ての商業施設等、先導的な建築が進展しています。

製材工場の規模別の工場数の比較

工場の規模 (国産原木消費量)	工場数(原木消費量計)	
	平成16(2004)年	令和元(2019)年
10万㎡以上	0 (0)	12 (243万㎡)
5～10万㎡未満	13 (85万㎡)	31 (224万㎡)
1～5万㎡未満	194 (370万㎡)	209 (430万㎡)
1万㎡未満	9,213 (692万㎡)	4,130 (390万㎡)

資料：林野庁木材産業課調べ

近年、年間の原木消費量が1万㎡以上の工場が増加しています。一部の大規模工場では、製材と集成材の複合的な生産や木質バイオマス発電等との複合経営をしています。

上海のショッピングモールの外壁にスギ・ヒノキ材を利用した例



写真提供: 越井木材工業株式会社

2021年の木材輸出額は、前年比33%増の475億円となりました。米国に向けたフェンス材や、外装等に用いられる高耐久木材の輸出も見られます。

森林の整備・保全

森林の整備・保全の動向や国際的な取組について記述しました。

特に、森林経営管理制度と森林環境譲与税の取組状況について、事例を交えて紹介しています。

また、山地災害、野生鳥獣被害等への対応、地球温暖化対策等についても記述しました。

林業と山村(中山間地域)

林業や特用林産物、山村(中山間地域)の動向について記述しました。

特に、「2020年農林業センサス」に基づく林業経営体の動向について詳しく説明するとともに、

林業労働災害、女性活躍、素材生産費についてコラムを作成し紹介しています。

木材需給・利用と木材産業

木材需給、木材利用と木材産業の動向について記述しました。

2020年の木材自給率は、10年連続で上昇し41・8%と1972年以来40%を超えました。また、「建築物木材利用促進協定制度」の取組状況や、「木材利用促進の日」(10月8日)、「木材利用促進月間」

(10月)を踏まえた普及の取組等を紹介しています。

森林経営管理制度の取組例



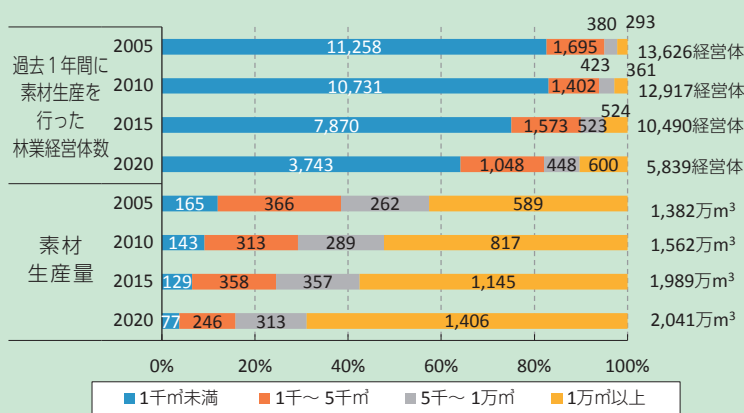
愛知県岡崎市では、制度の対象に選定した地区全体の境界確認と測量を実施した後に意向調査を行うことで、意向確認から森林整備までを円滑に実施しています。

治山施設の効果例



2021年7月の大雨では、鹿児島県さつま町の治山施設が、渓岸侵食を軽減するとともに土砂や流木の流出を抑制し、山地災害による被害を軽減しました。

素材生産量の規模別の林業経営体数等の推移



林業経営体の数が減少する一方、年間素材生産量が1万㎡を超える林業経営体の数、生産量に占める割合は増加し、規模拡大が進行しています。

おもちゃ美術館が続々オープン



NPO法人芸術と遊び創造協会の監修の下、木の玩具を触って遊べる体験型木育施設「おもちゃ美術館」が各地でオープンしています。2022年には計10館となる予定です。

「日本美しの森 お薦め国有林」のPR



「日本美しの森 お薦め国有林」の観光利用が促進されるよう、PRビデオや、TVアニメとのコラボレーションによるガイドブックを作成しました。

低コスト造林技術の実証・普及



九州森林管理局では、「低コストモデル実証団地」を設定し、特定母樹由来の大苗（70～100cm程度）の活用等を検証し、下刈りを省略できる可能性等が示されました。

海岸防災林の復旧



写真提供:宮城県

海岸防災林の復旧が必要な約164kmのうち約153kmで植栽等の造成工事が完了しました。宮城県では、海岸防災林の重要性を知ってもらうため、PR活動やバスツアー等を実施しました。

森林・林業白書の本文については、林野庁のウェブサイトに掲載しています。詳しくは、以下のリンクを御覧ください。

<https://www.rinya.maff.go.jp/j/kikaku/hakusyo/r3hakusyo/>



国有林野の管理経営

第Ⅳ章

国有林野の役割や国有林野事業の取組について記述しました。

公益的機能の発揮を重視した複層林・針広混交林への誘導や長伐期化、生物多様性の保全のための「保護林」や「緑の回廊」、一貫作業システム等の低コスト化技術の普及、「国民の森林」としてNPO・学校・企業等へのフィールド提供等の取組について紹介しています。

東日本大震災からの復興

第Ⅴ章

東日本大震災からの復興に向けた森林・林業・木材産業の取組や原子力災害からの復興について記述しました。

海岸防災林等の復旧、林業・木材産業の復旧状況、復興への木材の活用、森林の放射性物質対策等について紹介しています。

非破壊検査によるまつたけ出荷



食品中の放射性物質の検査は、これまで検体を細かく砕く必要がありました。2021年9月から、一部地域で、非破壊による検査で安全性を確認したまつたけの出荷が再開されました。

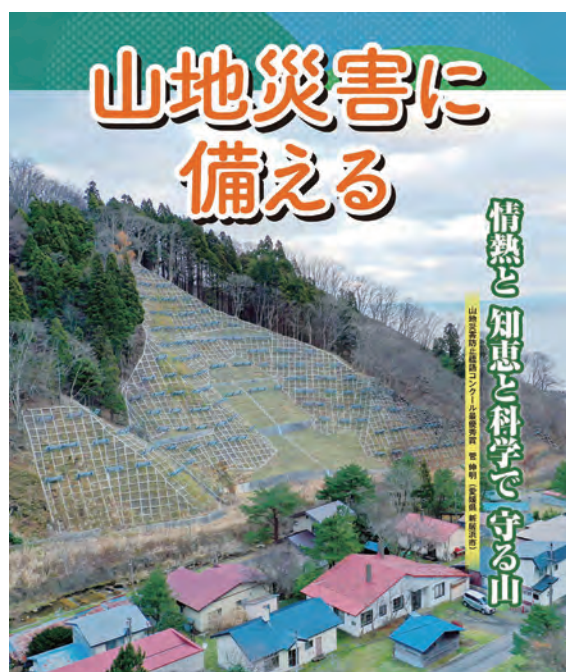
山地災害防止キャンペーン！ ～ 情熱と 知恵と科学で 守る山 ～



令和3年5月に発生した地すべり災害(石川県白山市)



令和3年8月豪雨災害による住宅等被害(佐賀県神埼市)



山地災害防止啓発ポスター

我が国では、毎年約2,000か所以上で山地災害が発生し、人命や財産に大きな被害をもたらしています。

林野庁では毎年、山地災害の起こりやすい梅雨の時期に、国民の皆さまに山地災害防止に対する理解と関心を深めていただくため、「山地災害防止キャンペーン」を実施しています。

● 山地災害の多い日本

日本の国土は、険しい山が続く複雑な地形をしており、川幅は狭く、急流が多いという特徴があります。また、大陸プレートと海洋プレートの境界に位置しており、地震や火山活動も活発であるため、山崩れや土石流、地すべりなど、山地災害の危険を常に抱えています。

さらに、日本の年間降水量は約1700ミリで、これは世界平均の約2倍とわけて雨が多く、特に梅雨期や台風期の際は局地的な集中豪雨が起り、各地に大きな災害をもたらしています。また、雪どけ期には、河川の増水やなだれの危険も高くなります。加えて近年は、地球温暖化による影響等により局地的な集中豪雨が増加しています。

このような条件にある我が国では、山崩れや土石流、地すべりなどの山地災害が、ある日突然やってくる。自らの生命と財産を守るため、日頃

から防災への理解と関心を深めるとともに、災害に対する備えをしておくことが重要です。

林野庁では、5月20日(金)～6月30日(木)に「情熱と 知恵と科学で 守る山」を標語として掲げた「山地災害防止キャンペーン」を実施し、各都道府県・市町村と連携して、山地災害の未然防止や少しでも被害を軽減させるための活動に取り組んでいます。

● 主な活動内容

林野庁では都道府県及び市町村と連携し、山地災害の未然防止等を図るため、公共施設等における啓発ポスターの掲示、地域の危険地区の周知や、小学校等での防災教室の開催、注意を促すパンフレットの配布等を行います。また、治山事業の重要性を知っていただくために、事業施工地の見学等を開催します。



「山地災害の危険信号を見逃すな」注意を促すパンフレット



ヘリコプターによる被害状況等調査



災害箇所を調査



小学生への森林学習



パネル展を開催

さらに、保安林制度の周知や保安林の機能が發揮されるよう巡視など適切な管理を推進します。
 なお、見学会等については、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じて実施します。

● **まずは山地災害のおそれのある危険な場所、避難場所等を知ること**
 山地災害による被害発生を防止するためには、地区住民の皆さんが日頃から身近にある山崩れや土石流、地すべりなどの起きやすい危険な場所や、台風や大雨の際の避難場所を知っておくことが重要です。各都道府県等では、山地災害発生のおそれがある場所を「山地災害危険地

区」として把握するとともに、日頃から治山施設の点検等の山地防災パトロールを実施しており、この情報を避難場所などの防災情報とともにウェブサイトや防災マップに掲載して、地域の皆さんの防災活動や避難に役立てられるようにしています。「山地災害防止キャンペーン」では、こうした情報をより多くの方に役立てていただけるよう活動に取り組みとともに、災害発生時の警戒避難体制の整備に努めます。

※ 保安林とは、水源の涵養、土砂の崩壊その他災害の防備、生活環境の保全・形成等、特定の公益目的を達成するため、農林水産大臣又は都道府県知事によって指定される森林です。保安林では、それぞれの目的に沿った森林の機能を確保するため、立木の伐採や土地の形質の変更等が規制されます。

「みどりの感謝祭」を開催 感じよう みどりの恵みと木のぬくもり

みどりの感謝祭 式典

毎年、木々や草花の新緑が鮮やかな4月15日から5月14日までは、みどりに関心と理解を高める「みどりの月間」です。森と花の祭典―「みどりの感謝祭」は、みどりの月間の期間中に実施される全国各地の緑化行事の締めくくりとして開催されます。

今年は5月7日に、初めて感謝祭の名誉総裁に御就任された佳子内親王殿下の御臨席のもと、衆参両院議

長、武部農林水産副大臣、そのほか関係者の約100名の方々に出席いただき、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底の上、東京都千代田区のイノホールにて3年ぶりに式典を開催しました。

佳子内親王殿下からは、「かけがえない『みどり』を引き継いでいくためには、私たち一人ひとりが『みどり』の大切さを認識することが大事であると感じています」とのおことばを賜りました。

続いて、みどりや森林に関して顕著な功績のあった方に贈られる「みどりの文化賞」の顕彰、地域の環境美化や緑づくりに取り組む緑の少年団等への苗木と花の特別贈呈、山火事予防ポスター用原画入賞作品の表彰を行いました。

式典の最後には、来年5月に全国植樹祭が開催される岩手県の「高田松原津波復興祈念公園」で活動している米崎緑の少年団から、誓いの言葉が述べられました。



式典に御臨席賜った佳子内親王殿下



主催者代表挨拶を述べる武部農林水産副大臣



↑ 岩手県米崎緑の少年団



↑ 大分県高瀬みどりの少年団



↑ みどりの文化賞を受賞された池谷キワ子様



竹のオーナメントづくり

里山から伐りだした竹を使ってのオーナメントづくり。



ツリークライミング体験

ロープや道具を使用して、安全に木に登るレクリエーションです。自分のペースで好きな高さまで登ることができ、子どもたちは樹上からの景色を楽しんでいました。



子ども消防士全員集合

山火事の際に消火に使われるジェットシューター。見事に的に命中。



子ども樹木博士に挑戦

公園内の樹木をめぐる、子どもたちはインストラクターから説明を受けながら樹木の名前を覚えて、「子ども樹木博士」の認定証を授与されました。

イベント情報等

各地で開催される自然体験講座などの緑に親しむ行事の情報、美しい

式典と同じく3年ぶりとなる「みどりとふれあうフェスティバル」会場イベントを新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底し、初めて東京都江東区の木場公園北側のイベント広場と多目的広場で開催しました。悪天候の影響で開催が5月15日のみとなりましたが、当日は親子連れを中心に延べ1万人以上の来場者がありました。

木場公園でイベントを開催

みどりとふれあうフェスティバル

日本の自然や企業による国際的な生態系回復プロジェクトの動画などを8月までウェブサイトに掲載しています。

これから開催される行事もありますので、参加してみたいかがでしょうか。

<https://www.midorinokansha-sai.com/>



森林散策VR体験

紙製のVRゴーグルを配布したブースでは、ゴーグルを上下左右に動かしながら360度の森林散策の体験をしていました。

森林環境譲与税を活用した取組

地球を潤す森林環境保全へのプロセス

Vol. 3

都市の暮らしと結びついた 森林の整備と資源の有効活用

はじめに

神戸市は、兵庫県の南東部に位置し、六甲山系が東西に連なっています。森林面積は21,151ha（総面積の38%）で、このうち1,616haは人工林となっています。

六甲山系は江戸時代以前の樹木の伐採によりはげ山となっていました。明治年代から緑化が始められ、その後、神戸市では緑化と管理を進めてきました。2012年には「六甲山森林整備戦略」を策定し、都市の暮らしと密接に結びつけた六甲山の森林の手入れを進めていく方針を定めました。2019年には森林環境譲与税を活用し、全市での森林整備や木材活用、人材育成、普及啓発などを行う基本計画をとりまとめました。

神戸市の森林は、薪炭などを得るために利用されてきたものが大半で、その多くは放置され、樹木の大径木化や常緑樹林への植生遷移、生物多様性の低下、竹の繁茂などの問題が生じています。また、スギ・ヒノキ等の人工林が占める割合はわずかに1割弱であり、林業は盛んではなく、森林の

管理に必要な林道などのインフラや伐採などの担い手も不足しています。このような背景から、人工林の多くも管理が不十分となっており、災害への耐性が小さく、倒木や斜面崩壊、土砂の流出が発生しやすくなっています。

近年、頻発する豪雨等による土砂災害を防止できる健全な森林を維持するには、神戸市では、公的な関与が必要であると考えています。そこで、森林環境譲与税（2021年度譲与額：132,610千円）を活用して、以下の事業を行っています。

1 森林整備

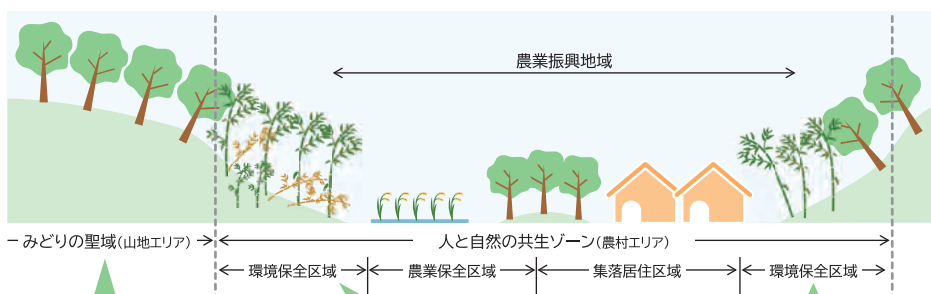
① こうべ都市山再生事業（2021年度決算予定額：27百万円、次年度繰越予定額：37百万円）

六甲山系や帝釈丹生山系などの山地エリアを対象として、市が実施主体となり、私有の人工林や農地に面した森林の整備、林道の修繕などを実施するものです。2019年度から2021年度の3年間で人工林間伐約7ha、広葉樹林整備約9ha、林道修繕約1,000mを行いました。

② 里山整備支援事業（2021年度決算予定額：6百万円）

農村エリアの森林を対象として、里山林や竹林の整備を行う地域団体等の活動費や資機材の購入、講習会の開催などにかかる経費の補助を行う制度で、対象事業費の95%以内、3年間で上限300万円を補助するものです。2019年度から2021年度の3年間で19地区における団体の活動への補助を行いました。申請団体は補助金を使い、竹チップパー等の機材の購入や、大木伐採の外注などを行っています。

こうべ都市山再生事業と里山整備支援事業の対象範囲



- こうべ都市山再生事業
 - 防災や生活環境保全の観点から重要な場所の整備、森林アクセス路の整備など
 - 六甲山上では観光面にも寄与する整備

- 里山整備支援事業
 - 地域住民等による里山林・竹林の整備等の活動支援
 - 農村集落周辺で、面積2ha未満を対象
 - 委託費用を含む95%助成(上限3,000千円)



▲ 内装材に木材を使用した公共建築物（六甲最高峰トイレ）



▲ こうべ都市山再生事業で実施した人工林整備

2

木材活用（2021年度決算予定額…2百万円）

主に公共建築物等において木材利用を行っており、可能な限り神戸市産木材や兵庫県産材の利用に努め、入手困難な場合は国産木材を利用する方針です。また、2019年以降、新庁舎や図書館、体育館、保育所、福祉センター、山頂トイレなどの木質化を行っており、床や腰壁、屋根、ルーバーなどに木材を使用しています。令和2年度に整備を行った六甲最高峰トイレでは県産材や市産材を活用しており、ベンチも設置しているため特にハイカーの方々には好評いただいています。

3

人材育成と普及啓発（2021年度決算予定額…7百万円）

市では、今後の森林整備や木材活用を担う専門人材を育成していく方針で、市内の造園事業者を対象とした広葉樹林の伐採技術を学ぶ研修などを行っています。今後も兵庫県と連携しながら取り組んでいきます。

また、以前から子供や一般市民を対象とする下草刈りなどの森林整備体験などを行ってきました。

引き続き、森林整備や木材活用をPRする取組を一層進めていく方針です。

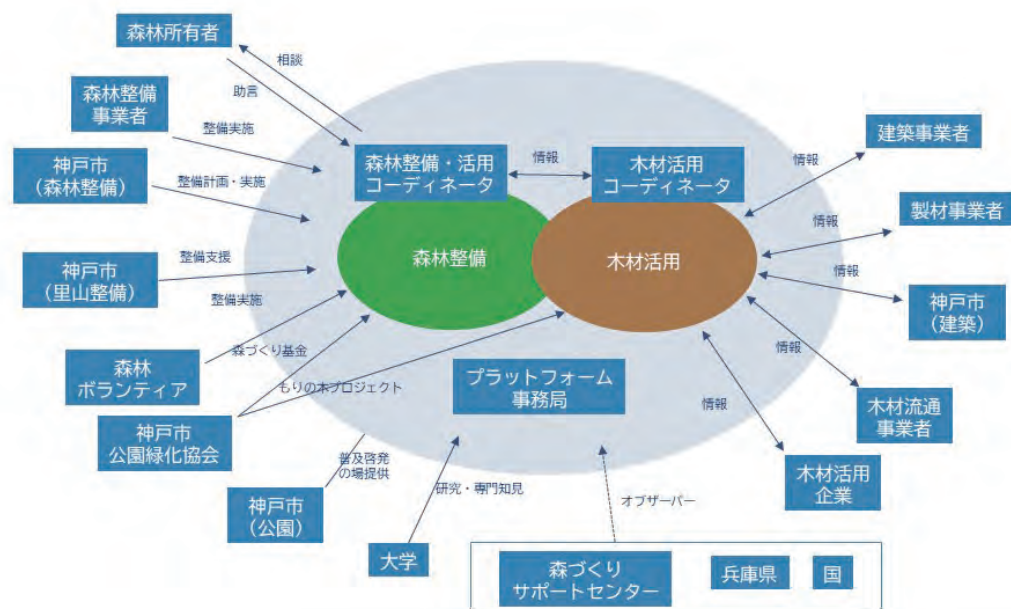
4

連携の場（仮称）こうべ森と木のプラットフォーム（2021年度決算予定額…8百万円）

市の森林整備を円滑に進め、森林資源を有効活用するためには、川上から川下に関わる庁内外の多様な主体が連携し、それぞれの取組を連動させていく必要があります。このため、行政機関や森



（仮称）こうべ森と木のプラットフォーム イメージ



林所有者、森林整備事業者、木材流通事業者、製材事業者等の連携の場として、「（仮称）こうべ森と木のプラットフォーム」の設立に向けた準備を進めています。プラットフォームでは、行政と民間それぞれの良さを活かして連携しながら、森林整備や森林資源の活用を推進していきます。この取組は始まったばかりですが、都市と森林が近接している神戸市の特性を活かしていくため、森林環境譲与税を有効に活用していこうと考えています。



日本の林業遺産を知ろう



甲賀市甲南ふれあいの館の展示

甲賀の前挽鋸製造および流通に関する資料群

一般社団法人 日本森林学会 林業遺産選定委員長 京都大学 深町加津枝

滋

賀県南部の甲賀地域には豊かな森林資源があり、特に仙川

流域の仙谷と大戸川流域の信楽谷は大和・山城に隣接し、古代から用材の供給地となっています。仙師、木挽により伐採、製材されたヒノキやスギの大径の天然木は、東大寺や石山寺の造営にも利用されました。この頃の木挽による製材は、楔や鑿で木を叩き割る打割製材であり、木目が通って割りやすいスギやヒノキ、クリが利用されてきました。室町時代になると朝鮮半島より二人で使用する製材用の縦挽き鋸、大鋸が導入されて柱や板の製材が可能になりました。安土桃山時代は、日本独自に工夫を重ねた一人挽きの製材用鋸、前挽鋸が主流となり、製材工程が効率化されました。そして、割裂性が悪いため利用されなかったアカマツやケヤキなども構造材として利用できるようになり、日本建築の様式に影響を与えました。

前

挽鋸の生産の中心は京都でしたが、江戸中期（1752年頃）に製造技術を持った天王寺屋九右衛門（福本家の先祖）が京都から地元・甲賀に戻り、前挽鋸鍛冶を開始しました。その後、甲賀前挽鋸が流通し、甲賀地域は前挽鋸製造の中

心地となっていました。前挽鋸は
 杣川流域の森尻、深川、三本柳、牛飼、
 杣中などの集落で製造され、八里平
 右衛門、福本九左衛門、今村庄九郎
 などの有力な業者は登録商標を行っ
 たブランド名を持っていました。

前

挽鋸の原材料の鋼には和鋼が
 使われましたが、明治時代にな
 ると洋鋼が導入され、生産量が太
 大きく増加しました。甲賀地域の職工
 の数は多い時で300人に及び、販
 路は全国に広がり、戦前には樺太、
 朝鮮半島、台湾からの発注もありま
 した。しかし、昭和初期に帯鋸など
 の製材機械が普及するようになると
 前挽鋸の生産量は激減し、昭和30年
 代を最後に製造が終了しました。

甲賀地域の前挽鋸の製造に関わる



前挽鋸



資料や道具一式は、「甲賀市甲南ふ
 れあいの館」に保管、常設展示され、
 一連の調査結果は報告書『近江甲賀
 の前挽鋸』にまとめられています。
 資料には、江戸中期から明治30年代
 にかけて前挽鋸の製造と販売に従事
 した福本家に伝えられた全1、
 223点の文書群があります。製造
 道具一式は、八里平右衛門家の工場
 が昭和61(1986)年に解体され
 る際に寄贈され、鋸の形を造るのに
 必要な「黒打ちの用具」、表面を平
 らに仕上げるための「透きの用具」
 などがあります。また、検品をして
 刻印を入れて造られた鋸製品、鋸を
 作る職人や木挽に関係する資料、流
 通先の記録に加え、平成時代に前挽
 鋸製造の技術者から収集した写真、
 製造工程の作業を記録した動画もあ
 ります。それらの一部は
 平成27(2015)年に、
 『近江甲賀の前挽鋸製造用具及び製品
 として国重要有形民俗文化財に指定されて
 います。甲賀地域で最後



前挽鋸製造過程



前挽鋸製造・販売に関する文書



今村庄九郎商店の看板

の木挽であった田中新治郎さんへの
 聞き取り調査結果からは、ひとつと
 して同じものがない樹木を相手に伐
 木や製材を行ってきたこと、そして
 木を熟知した木挽としての誇りが分
 かります。

甲

賀の前挽鋸製造および流通に
 関する資料群は、体系的に
 林業、製材業における前挽鋸の果た
 した役割を伝える重要な林業遺産で
 す。前挽鋸という1つの道具の出現
 により、木挽の仕事の幅が広がり、
 森林の資源利用形態、木の文化にも

影響を与えました。「甲賀市甲南ふ
 れあいの館」の展示や普及・啓発に
 関わる佐野正晴さん(甲賀市教育委
 員会事務局)は、「木挽の仕事、そ
 して前挽鋸製造および流通に関する
 資料群を多様な視点で読み解き、関
 心を持ってほしい。」と話します。
 林業に関わる道具の歴史や多様な価
 値を共有することは、これからの人
 と自然との関わりのある方を考える
 大事な一歩になるでしょう。



展示を案内する佐野正晴さん



甲賀市甲南ふれあいの館

民国連携による ナラ枯れ被害対策の取組

東北森林管理局 津軽森林管理署

管内概要 津軽森林管理署

所在地 青森県弘前市大字豊田2丁目2-4

関係市町村 弘前市、平川市、黒石市、大鰐町、鱒ヶ沢町、
深浦町、西目屋村

当署は、青森県の西部に位置しており、弘前市をはじめとする7市町村にまたがる国有林野を管理しています。

流域内総面積は約23万haにわたり、森林面積は約17万ha。そのうち国有林は約13万haと総面積の約5割を占め、国有林比率が高い地域です。

管内の国有林には、日本百名山で県内最高峰の岩木山や、平成5年に世界自然遺産登録された白神山地があり、世界最大級の広さで原生的なブナ林が分布するなど、貴重な自然環境を有しています。

また、日本美しの森 お薦め国有林の一つである白神山地暗門の滝自然観察教育林をはじめ、津軽十二湖自然休養林、くろくまの滝風景林などのレクリエーションの森が設定されています。

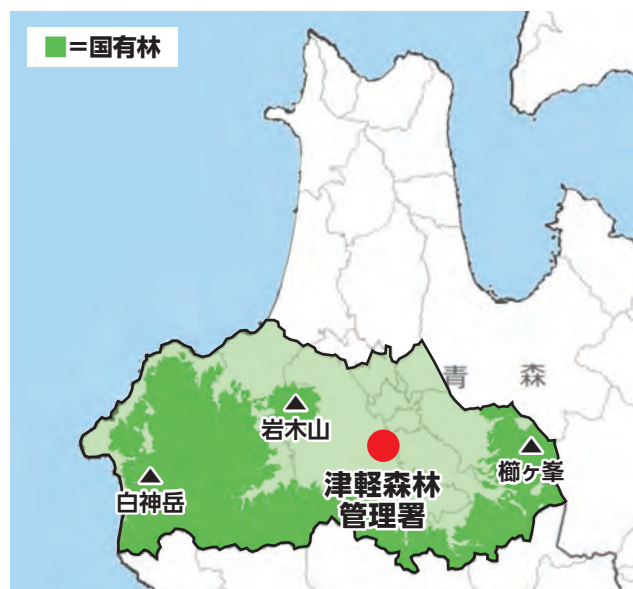


写真1. ナラ枯れ被害対策検討会

青森県から軽飛行機で撮影したデジタルオルソ画像の提供を受け、GIS

◆監視対策

青森県におけるカシノナガキクイムシ（以下、「カシナガ」という。）によるナラ枯れ被害は、平成22年に初確認後、一旦終息していましたが、平成28年から再発生し、その後拡大傾向にあります。被害は主に県の西海岸に位置する深浦町で発生しており、令和2年から近隣の市町村にも被害が拡大しています。津軽森林管理署では青森県と協力してナラ枯れ被害の監視、駆除等の対策を行ってきました。今回は民国連携により行っている当署のこれらのナラ枯れ被害対策の取組を紹介します。

◆はじめに



写真2. くん蒸処理の様子

青森県では「青森県ナラ枯れ被害対策基本方針」を定めています。この基本方針では、

- (イ) 被害発生中期以降地域（被害木本数10本/ha程度以上）では、(ア)と同様に、被害木の全量駆除を基本として全量駆除する。（写真2）
- (エ) 被害発生初期地域（被害木本数10本/ha程度未満）では、被害木は、伐倒くん蒸処理を基本として全量駆除する。（写真2）

◆駆除対策

ソフトに取り込むことにより、色による自動検出からナラ枯れ被害量の推定を行いました。加えて、現場職員による毎木調査及び無人航空機を含めた目視調査を行い、青森県ナラ枯れ被害対策検討会等において各関係団体と被害状況を共有しています。（写真1）

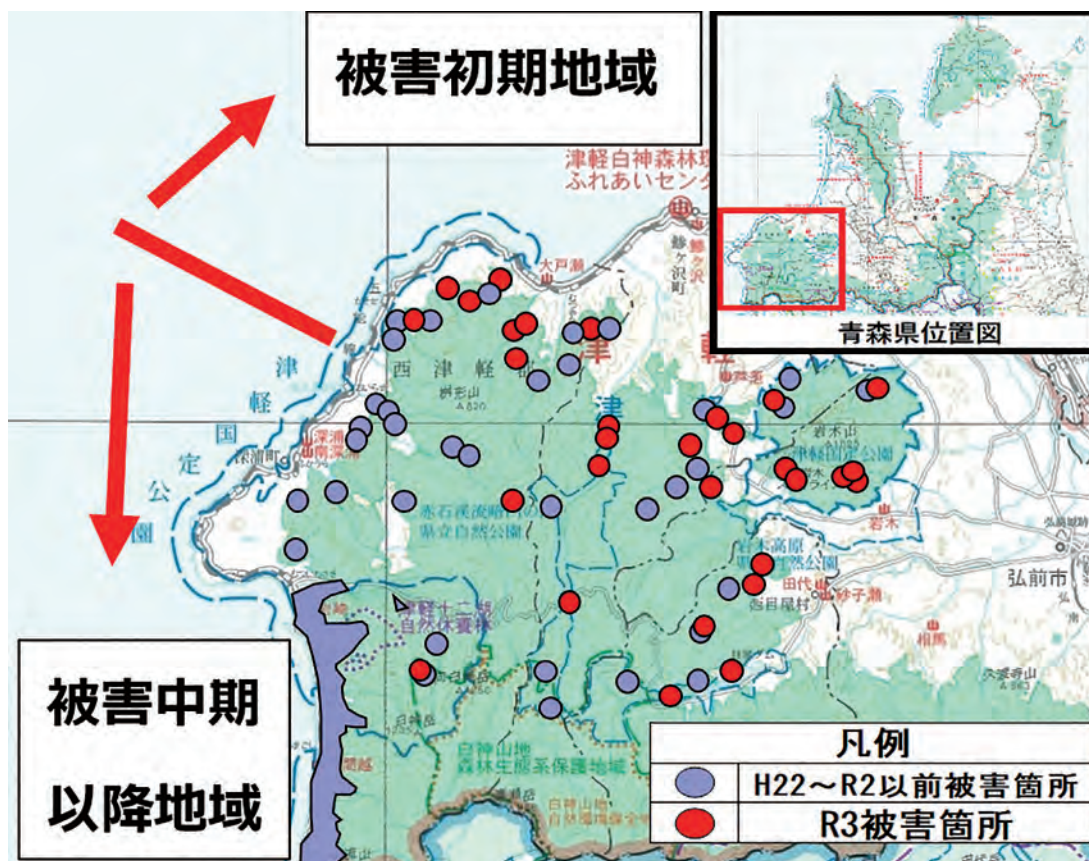


図. 被害発生区域図面

とするが、全量駆除が困難になるおそれがある場合は、検討会での結果を基に現場状況に応じた駆除やカシナガの誘引捕殺等の対策を講じる。

この基本方針に従い、被害状況に応じて被害地を2つの地域に分類し、そ

の地域に応じた対策を実施しています。

現在、深浦町・麴木以南の日本海側が(イ)の被害発生中期以降地域となっています。(図)

この地域では面的に被害が拡大しているため、拡大を防ぐためにおとり丸

令和元年度の急速なナラ枯れ被害拡大を受け、令和2年度に青森県が試行的に3力所で実施しました。その後、令和3年度からは国有林で12力所、民有林で10力所、合計22力所で誘引捕殺を行いました。

おとり丸太法による効果を調べるために山形大学・齊藤正一客員教授の指導の下、



写真4. 処理木の地元住民への販売

おとり丸太法とは健全木の丸太を集積して、合成フェロモン剤を仕掛け、カシナガを誘引した後、破碎・焼却により殺虫する手法です。

◆おとり丸太法

本設置による誘引捕殺(以下、「おとり丸太法」という)を実施しています。



写真3. おとり丸太への誘引虫数推定作業

また、おとり丸太法による使用後の材については管内の発電所に木質バイオマス燃料としても販売しています。今後も被害木等の有効活用の取組を継続してまいります。

◆被害木の有効活用

前述の伐倒くん蒸した処理木とおとり丸太法で使用した材は、地域外への移動が制限されますが、自治体側から有効活用したいとの要望を受け、令和2年度からこれまで放置していた伐倒くん蒸後の処理木を地元住民に新炭材として販売する取組を始めており、ご好評いただいています。(写真4)

枯損防止推定本数を計測したところ、令和3年度は、民有林・国有林合わせて約5000～9000本の枯損防止効果があったと推定されました。(写真3)

今後も青森県と連携し効果的な設置箇所を選定し、被害の抑制に努めていきます。

JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2022

「ウッドデザイン賞」は、木の良さや価値を再発見できる製品や取組について、特に優れたものを評価し、表彰する制度です。「木のある豊かな暮らし」が広がり、日々の生活や社会が彩られ、木材利用が進むことを目的に、今年で8年目を迎えます。

同賞には、「ライフスタイルデザイン部門」、「ハートフルデザイン部門」、「ソーシャルデザイン部門」の3つの部門があります。特に優れた作品には、「最優秀賞」、「優秀賞」、「奨励賞」、「特別賞」が授与されます(11月上旬発表予定)。

応募期間は、7月31日(日)までとなっています。新しい「木づかい」や「ウッド・チェンジ」につながる取組について、皆様からのご応募をお待ちしています!

応募はこちらから!



ウッドデザイン賞公式HP: <http://www.wooddesign.jp>

応募方法: 上記公式HPの専用フォームよりエントリーしてください。

応募期間: 6月20日(月)10:00~7月31日(日)18:00

審査費用等: 一次審査(書類審査)は無料です。一次審査を通過した作品が二次審査(現物等審査)を受けるにはエントリー料をお支払い頂きます。また、現物の送付等の経費も応募者に負担頂きます。

同時募集!



「あなたのおすすめウッドデザイン」を教えてください

ウッドデザイン賞2022では、自らの応募だけでなく、皆様が「こんな作品はウッドデザイン賞にふさわしいのではないか」と考える、建築・空間、木製品、取組などをご紹介いただき、エントリーにつながる取組を行っています。専用フォームよりぜひご紹介ください!(6月30日(木)まで)



ウッドデザイン賞2021最優秀賞(農林水産大臣賞)
URASHIMA VILLAGE

株式会社金丸工務店(香川県)、瀬戸内ビレッジ株式会社(香川県)



ウッドデザイン賞2021優秀賞(林野庁長官賞)
木の冷凍ご飯容器「COBITSU」

株式会社大橋量器(岐阜県)、南地秀哉(千葉県)

特別賞以上の受賞作品はエコプロ2022にて表彰・展示の予定です(令和4年12月7日~9日 会場:東京ビッグサイト)。その他の展示機会や入賞作品集の配布等により広報・PRを行います。

(問い合わせ先)

ウッドデザイン賞運営事務局【(一社)日本ウッドデザイン協会】HP▶

メール: info2022@wooddesign.jp

※過去のウッドデザイン賞受賞作品をウッドデザイン賞受賞作品データベース(<https://www.wooddesign.jp/db/>)に掲載していますので、ぜひご覧ください。



Facebook▶



みどりの女神が行く!



ミス日本みどりの女神

なりた あすみ
成田 愛純

第31回森と花の祭典・「みどりの感謝祭」に参加させていただきました。
5月7日に開催された式典では佳子内親王殿下のご臨席を賜り、地域の環境美化や緑づくりに取り組む団体の方々への記念品贈呈や山火事防止ポスターの入賞作品等の表彰が行われました。会場には全国各地で緑を育てる活動に取り組む子どもたちなどおよそ120人が参加しており、私も表彰式などのお手伝いをさせていただきました。

佳子内親王殿下がご挨拶の時に述べられていた「かけがえのない『みどり』を引き継いでいくためには、私たち一人一人が『みどり』の大切さを認識することが大事だ」というお言葉に、みどりを守っていくことの大切さを再認識いたしました。
私にとって初めての式典参加となり、大変貴重な経験となりました。



▲「みどりの感謝祭」にて

5月15日には木場公園で行われた、第31回森と花の祭典・「みどり」とふれあうフェスティバル」に行つてまいりました。今回は私一人ではなく、なんと歴代のミス日本みどりの女神が集り、先輩方と共に活動することができて大変嬉しく思いました。



▲歴代のみどりの女神と一緒にフェスティバルに参加!

会場には数多くの体験や展示ブースがあったのですが、中でも記憶に残ったのは全国燃料協会様、全国木炭協会様のブースでの炭花壇作り体験です。花壇の土台となっている炭には吸着性能があり脱臭や浄化作用があるそうです! 出来上がりは見た目も可愛らしく、和の雰囲気特徴的な炭花壇になり、皆様と楽しみながら体験することができました! 会場には親子連れも多く、体験コースもとても盛況でした。多くの方々がみどりや木に高い関心をもっている感じがして大変うれしく思いました。

5月22日は、秦野市で行われた「緑の祭典」かながわ未来の森づくり2022 in はだの」の司会を務めさせていただきました。これまでオンライン司会などが多かったのですが、今回はリアルで大勢の前に立つ初めての挑戦でした!

会場では丹沢アルプホルンクラブの皆様による演奏や森林づくり活動の功労者様の表彰、代表者による記念植樹などが行われました。私も急斜面を登って広葉樹を植えました。苗木が大きく育ち、次世代に繋がる素晴らしい森になる事を祈りました。植樹会の後には、森林セラピーロードを歩く森林探訪会に参加し、ガイドさんの案内で珍しい植物や葉の香り、木の音や形など森の恵みを五感で感じ、とても癒されました。

今月は沢山の方々と交流することができ、また私の地元である神奈川県川島の素晴らしい祭典に参加出来たことを大変嬉しく思います。特に、秦野の森歩きは多くの方におすすめてきます!

みどりの女神の活動時には、神奈川県川島の魅力発信にも取り組んでいきたいと思っています。





発行／林野庁 〒100-8952 東京都千代田区霞が関1-2-1 電話 03-3502-8111 (代) FAX 03-3591-6505
編集／株式会社アイエヌエー 東京都中央区東日本橋2-24-7 印刷／株式会社コムラ 岐阜県岐阜市三輪がしんとぴあ3

21th 聞き書き甲子園

ニッポンの
深層へ。
未知の世界の
扉をひらこう。



森・川・海の名人たちを未来につなげ!



KIKIGAKI

【主催】聞き書き甲子園実行委員会（農林水産省、文部科学省、環境省、公益社団法人国土緑化推進機構、NPO法人共存の森ネットワーク）【募金協力・企業寄付】株式会社ファミリーマート
【助成】公益財団法人日本財団【協賛・協力】一般財団法人環境文化創造研究所、公益財団法人一ツ橋文芸教育振興会、富士フィルムホールディングス株式会社、株式会社長塚電話工業所、株式会社トシボ、京王電鉄株式会社、株式会社ティムコ、公益財団法人SOMPO環境財団、株式会社ベネッセコーポレーション【後援】総務省、全国知事会、全国市長会、全国町村会、全国山村振興連盟、一般社団法人全国通称地域連盟、NPO法人「日本で最も美しい村」連合

応募〆切：2022年6月23日（木）

【参加資格】高校生【募集人数】96人【参加費】無料
【お問い合わせ】聞き書き甲子園実行委員会事務局（NPO法人共存の森ネットワーク内）
TEL: 03-6432-6580 / FAX: 03-6432-6590 / E-mail: contact@kikigaki.net



あなたと、ここに、
FamilyMart

ファミリーマートは「夢の掛け橋基金」を通じて、この活動を応援しています。

リサイクル適性 (A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。



本誌に使われている紙は、
日本の森林を育てるために
間伐材を積極的に使用しています。

「林野」は林野庁 HP でもご覧になれます。詳しくは

情報誌 林野

検索

